

I 群：聴覚（基礎）

I-1. 加齢と補充現象が音響的キューの判断に及ぼす影響：時間短縮加工をした日本語特殊音節の促音を用いて

○横山智子¹⁾ 進藤美津子¹⁾ 荒井隆行¹⁾ 新谷敬人²⁾

¹⁾上智大学 ²⁾理研BSI言語発達研究チーム

【目的】高齢者群をSISIスコア60%以上と未満の群に分け、時間短縮加工を施した促音の同定実験を通じ、促音の音響的キューの判断能力にSISIスコアの差異が影響しているかを検討した。

【対象】65歳以上の男女25名、うちSISIスコア60%以上の補充現象陽性の疑いがある者（以下高SISI群）が13名、SISIスコアが60%未満の者（低SISI群）が12名。若年者群は、健聴の20歳代から30歳代の男女29名。

【方法】/iken/, /ikken/等の非促音・促音のミニマムペアをなす単語5組を組み込んだ文（「次は○○○と言います」）を使用、約7モーラ/秒を標準速度とし、Praat version 4.3.31（Boersma, Weenink, 2006）にて発話全体の持続時間を2.0倍速、1.8倍速、1.6倍速に短縮した。刺激呈示後、ターゲット単語のみを書き取らせた。

【結果】促音同定成績は、若年者群が最も高く、次に低SISI群、高SISI群の順となった。多重比較の結果、2.0倍速、1.8倍速において、高SISI群および低SISI群は共に、若年者群に比べ1%水準で有意に成績が低かった。1.6倍速においては、高SISI群は若年者群に比べ1%水準で有意に成績が低かったが、低SISI群と若年者群に統計上の有意な差はみられなかった。

【考察】速い発話速度ほど、高齢者群の同定成績が低かったことは、高齢者は若年者に比べ発話速度の影響を受け、促音の音響的キューの判断に困難を示したためと推測される。また、1.6倍速において高SISI群のみが若年者群に比べ有意に成績が低かった理由としては、内耳障害が影響した可能性が考えられる。しかし、1.8倍速、2.0倍速においてはSISIスコアの差異は影響していなかったことから、より速い速度においては内耳障害よりも年齢の影響が大きいのではないかと考えられる。